

スタディガイド

(学習指導書)

〈文学〉

『和歌とは何か』

園 明 美

法政大学通信教育部

スタディガイド（学習指導書）について

このスタディガイド（学習指導書）は「文学」を履修するにあたり、指定市販本教科書『和歌とは何か』（岩波書店）を本学通信教育課程で学習する際の手助けとなるように作成されたものです。

今後、指定市販本教科書で学習を進めていくにあたって、このスタディガイド（学習指導書）を大いに活用して学習に励んでください。

法政大学通信教育部

学習指導書の使い方……	(ii)
学習の進め方	
一 指定市販教科書の使い方……	(1)
二 学習の目標……	(2)
発展学習のすすめ……	(8)
(付) 一般科目「文学」・リポート答案作成のルール……	(10)

学習指導書の使い方

一般科目「文学」では、日本古典文学における主要な分野の一つである和歌について学習します。本科目では、和歌に用いられる主要な修辭技法や和歌の文学史的展開を理解して、和歌を鑑賞するために必要な知識を身につけるとともに、他者の論考を読んでその内容を正確に理解する力を養成することを目指します。そのためには、指定市販教科書『和歌とは何か』（岩波書店 二〇〇九年）を熟読し、書かれている内容をしっかりと理解しなければなりません。

この学習指導書は、通信教育部の学生を対象とした学習の進め方の説明書です。一人で学ぶ人に向けて、指定市販教科書の活用方法を提案しています。指定市販教科書を読む際には、本書をあわせて参照してください。

本書の作成にあたっては、わかりやすさを心がけました。また、リポート作成の際に留意すべき点についても解説をしていますので、参考にしてください。

本書がみなさんの効率的な学習の助けとなることを願います。

二〇二〇年十月

園 明美

学習の進め方

一 指定市販教科書の使い方

指定市販教科書『和歌とは何か』は、初学者を対象とした入門書でありながらも、著者独自の見解が示された学術書の側面も持ち合わせています。和歌をはじめて学ぶ人や、和歌に興味はあるけれども、現代語訳したものを読んでも何を言いたいのかわからないと感じている人に向けて、「和歌とはどういうものか、現代を生きる私たちにもストンと腑に落ちる形で理解」（指定市販教科書一九頁）できることを考慮して書かれています。指定市販教科書を読めば、和歌を読むにあたってぜひとも知っておきたい基礎知識が身につくとともに、和歌のおもしろさが理解できるようになるでしょう。また、文学に限らず、どのような分野においても不可欠な、他者の意見を正確に理解した上で自分の考えを深める力も磨くことができると思います。

指定市販教科書『和歌とは何か』の本編は、「序章―和歌は演技している」「第Ⅰ部 和歌のレトリック」「第Ⅱ部 行為としての和歌」「終章―和歌を生きたということ」の四部構成となっています。序章では、和歌表現の解明のために「演技という視点を据える」（指定市販教科書一八頁）という、本書全体を貫く論点が示され、第Ⅰ部では、現代人にとって和歌を難解に感じる要

因のひとつである和歌の修辭技法（レトリック）の中から、枕詞・序詞・掛詞・縁語・本歌取りを取り上げています。第Ⅱ部では、和歌の文学史的展開の中でも重要な位置を占める、贈答歌・歌合・屏風歌・障子歌・柿本人麻呂影供・古今伝授について解説しています。そして終章では、それまでの考察を踏まえて、「浮世離れしたみやびの世界と思われがちな和歌」（指定市販教科書二三五頁）が長い間伝統を保ち続けてきたのは、人間の生と深く結びついていたからだという結論が示されています。

本科目のもっとも効果的な学習方法は、指定市販教科書を読み込むことです。まずは、『和歌とは何か』をはじめから終わりまで読み通してください。勿論、一度読んだだけでは理解できないことが多いと思います。そのような部分については、何度もくり返して読むことで、理解を深めてゆくしかありません。

なお、指定市販教科書には、「主要人名索引」と「歌集・歌論ほか、主要書名索引」が付いています。必要に応じて参照するとよいでしょう。

二 学習の目標

本科目の単位修得のためには、レポートと単位修得試験に合格しなければなりません。リポー

トと単位修得試験では、学習目標に照らし合わせて、みなさんが指定市販教科書によって習得した知識の定着度をはかります。

まずは、本科目の学習目標を示しておきます。

① 和歌を鑑賞することができる読解力の習得

② 和歌の文学史的展開の理解

③ 他者の論考の内容についての正確な理解

③に関しては、指定市販教科書の内容全体にわたって、取り上げられている事項についての著者独自の考えを正確に理解することが必要です。これに対して、①・②は、それぞれ本編のⅠ・Ⅱの内容と対応しています。

ここでは、特に①・②の学習目標の達成のために、指定市販教科書のどの部分を読めばよいのかを解説します。あわせて、③の学習目標の達成のために注意すべき着眼点についても示しておきます。

まず、①の和歌を鑑賞することができる読解力の習得については、「第Ⅰ部 和歌のレトリック」をよく読み、理解してください。以下に第Ⅰ部で取り上げられたそれぞれの修辭技法（レトリック）について、一般的にいわれている定義を簡単に説明した上で、③の他者の論考の内容についての正確な理解の達成のために、指定市販教科書を読む際の注意すべき着眼点を提示します。

1 枕詞

ある特定の語句を導き出すために直前に置く五音節の語句です。枕詞の起源については諸説ありますが、発生期には実質的な修飾語句や呪術的な慣用句など、意味のある言葉であったものが、長い間にくり返し用いられることで固定的で意味をなさない言葉になったものだと言われています。

2 序詞

ある語句を導き出すために直前に置く六音節以上の語句です。語句を導き出すという点では、枕詞と同様の機能を持ちますが、枕詞が五音節の語句であるのに対し、序詞は六音節以上の語句となります。また、枕詞が固定的な表現であるのに対し、序詞はその都度作られる即興的な表現であり、解釈の際にも、枕詞は特定の意味を持たず訳す必要がないのに対し、序詞の場合は具体的な意味・内容を持ち、訳す必要があります。序詞は普通、「同音・類音の反復によるもの」「比喻によるもの」「掛詞によるもの」の三つに分類されます。

3 掛詞

同音異義を利用して、一つの言葉を二通りの意味に機能させる修辭技法です。解釈の際には、二通りの意味をどちらも訳出する必要があります。多くの場合、二通りの意味は漢字で書き分け

られますが、中にはある言葉の一部分を掛詞として用いたり、文脈の違いで説明しなければならないこともあり、漢字で書き分けることができないものもあります。

4 縁語

ある言葉と意味内容上で関連のある言葉を意識的に用いる修辞技法です。序詞や掛詞とは異なり、解釈には反映しませんが、掛詞との相関性が高く、掛詞の一方が縁語となっている事例も多くあります。

5 本歌取り

すぐれた古歌の語句・発想・趣向などを意識的に取り入れて新しく作歌する修辞技法です。取り入れられる古歌をもととなる歌の意で本歌といいます。

指定市販教科書では、以上のような一般にいわれている定義を踏まえながらも、これらの修辞技法は、「音（声）」を直接に現実世界に働きかける力の源泉として「役割意識に満ちた演技的な空間」（指定市販教科書一二六頁）である儀礼的空間を生み出すものだという独自の見解を提示してゆきます。論証にあたっては、多くの具体例を挙げ、時にクイズ形式や図なども用いてわかりやすく説明されています。これらを参考に、著者の独自の見解を正確に理解しましょう。

次に、②の和歌の文学史的展開の理解については、「第Ⅱ部 行為としての和歌」をよく読み、理解してください。ここでも、以下に第Ⅱ部で取り上げられたそれぞれの事項について、一般的にいわれている定義を簡単に説明した上で、③の他者の論考の内容についての正確な理解の達成のために、指定市販教科書を読む際の注意すべき着眼点を提示します。

1 贈答歌

二人の人間の間でやりとりされた歌のことです。贈られた歌を贈歌、これに答える返事の歌を返歌と呼びます。基本的に、返歌は贈歌の中にある言葉をいくつか用いて詠まれます。

2 歌合

歌人を左右の組に分け、一定の題で双方から出した歌を順次披露し合って一番ごとに優劣を競う催しのことです。左右に分かれる参加者を方人（かたうど）、優劣の判定を下す人を判者、その判定を判（はん）といいます。

3 屏風歌・障子歌

屏風や障子に描かれた絵の主題に合わせて詠んだ歌のことで、屏風や障子に貼ったり描いたり

した色紙形に書かれます。絵の多くは四季の景物や行事、名所などを描いたものだったようです。

4 柿本人麻呂影供

柿本人麻呂を歌聖として祀り、和歌を献じて供養する歌会のことです。平安時代末期から行われ、人丸供養・人丸供などともいいました。

5 古今伝授

『古今和歌集』の難解な歌や語句についての解説を秘伝として、師から弟子へ伝え授けることです。平安末期から行われていたようですが、室町時代にはいつて形式が整えられて本格化しました。

第Ⅱ部で取り上げられているのは、いずれも古代から中世に至る和歌史の重要事項です。指定市販教科書では、これらの形式や構成についての解説を行いつつ、「現実の場から和歌を見たらどうなるのか」(指定市販教科書一四〇頁)という観点から、第Ⅱ部で取り上げた各事項を「現実の儀礼的空間」(同上)と位置付け、それぞれの事項が持つ意味を考察しています。ここでもまた、本文の内容を熟読することで、著者の考えを正確に理解しましょう。

発展学習のすすめ

指定市販教科書『和歌とは何か』を通読することによって、みなさんは、和歌の修辞技法（レトリック）や文学史的展開に関する知識を得るとともに、著者独自の見解を理解する力を習得することでしょう。その過程で、著者の見解に対する自己の評価や、著者の見解に触発されて自分の考えが芽生えてくることもあると思います。

その結果、もつといろいろな和歌や歌人や事項を知りたい、指定市販教科書以外の論考を読みたいと思った人には、さらに次の段階の学習に進むための助けになるよう、参考文献をいくつか紹介します。勿論、すべてを網羅することは不可能ですから、発展的学習の手がかりとなる、基本的な文献の紹介にとどめます。

なお、論文を探したい場合は、Cinii・国文学論文目録データベース（国文学研究資料館ホームページ内）などのサイトで検索することが可能です。大いに活用してください。

（一）辞書類

- 一 伊藤嘉夫編『和歌文学大辞典』明治書院 一九六二年
- 一 有吉保編『和歌文学辞典』桜楓社 一九八二年

(二) 作品

- 一 大養廉編『和歌大辞典』明治書院 一九八六年
 - 一 片桐洋一編『歌枕歌ことば辞典』笠間書院 一九九九年
 - 一 久保田淳・馬場あき子編『歌ことば歌枕大辞典』角川書店 一九九九年
 - 一 井上宗雄・武川忠一編『新編和歌の解釈と鑑賞事典』笠間書院 一九九九年
 - 一 『和歌文学大辞典』編集委員会編『和歌文学大辞典』古典ライブラリー 二〇一四年
- (二) 作品
- 一 『新編国歌大観』角川書店
 - 一 『私歌集大成』明治書院
 - 一 小学館 日本古典文学全集
 - 一 小学館 新編日本古典文学全集
 - 一 岩波書店 日本古典文学大系
 - 一 岩波書店 新日本古典文学大系
 - 一 新潮社 新潮日本古典集成
 - 一 上野洋三編『近世和歌撰集集成』明治書院
 - 一 久保田淳監修『和歌文学大系』明治書院
 - 一 風間書房 私家集全釈叢書

一 貴重本刊行会 私家集注釈叢刊

(三) 論考

一 和歌文学会編『和歌文学の世界』笠間書院

一 和歌文学会編『和歌文学講座』桜楓社

一 『コレクション日本歌人選』笠間書院

(付) 一般科目「文学」・レポート答案作成のルール

一般科目「文学」の単位修得のためには、レポートと単位修得試験に合格しなければなりません。そのためには、学習内容をしっかりと理解することが不可欠です。しかしながら、近年、内容以前に形式が整っていないために、大幅に減点せざるを得ないレポートが多く見られます。このような状況を踏まえ、ここでは、レポート答案作成にあたって注意すべき点を記しておきます。

一、提出条件を厳守する

「設題総覧」には、レポート提出の条件を明示しています。レポート作成にあたっては、必ず確認してください。本科目のレポートでは、指定のレポートノート（原稿用紙形式）に、手書

き・縦書きで作成するように定めています。この形式にはずれたものは、採点対象となりません。また、字数についても厳守してください。リポートノートの場合は、「講評」の前のページまでに収めなければなりません。たとえ一マスでもオーバーした場合は、やはり採点対象となりませんので注意してください。マス外にはみ出す、別紙を張ってそれに記入するなどということも不可です。

二、文体に注意する

論文・リポートでは、基本的に常体（～だ・である調）を用います。敬体（～です・ます調）は用いないよう注意してください。中には、常体・敬体が混在しているものも見受けられますが、常体で統一するようにしてください。なお、引用する参考文献が敬体で書かれている場合は、原文のまま引用してかまいません。

三、完成原稿を提出する

間違えた箇所を修正する場合は、修正液等を用いて直してください。時折、間違えた部分を塗りつぶしたり取り消し線を引いたりして、横に書き込んであるものを目にしますが、このような形のものとは推敲中のものと見なされ、完成原稿として採点することはできません。また、挿入記号を用いて言葉を後から書き込むのも同様です。必ず、完成原稿を提出してください。

四、原稿用紙の使い方に関する注意

リポートノートは原稿用紙形式になっています。原稿用紙には、使い方に関する一定の決まりがあります。リポートの採点の際に、特に目立った誤りについて、注意すべき点を示しておきます。

① 段落のはじめは一字空ける

段落とは、意味的なつながりのある、内容がまとまったいくつかの文の集まりをいいます。段落のはじめは、必ず一字空けます。忘れがちなので注意しましょう。なお、一文ごとに改行し、一字空けるのは誤りです。

② 無意味に空白を入れない

引用文の前後や、段落と段落の間を一行空ける事例がありますが、必要ありません。紙数も限られた短いリポートなので、無意味な空白を作るのはやめましょう。

③ 一マス一字を厳守する

漢字や仮名のみならず、句読点や括弧（ ） 、 カギ括弧 「 」 などの記号も、すべて一マスに一字（一記号）を記入します。なお、句読点や閉じ記号（ ） 、 「 」 など が行頭にきて

しまう場合は、前の行の最後のマスの中に入れてかまいません。

五、引用方法に注意する

リポートの内容によっては、必要に応じて参考文献を参照し、本文中にその文献の一部をそのまま引用したり、文献に示された見解を要約して示したりしなければならないこともあるでしょう。ここでは、引用する際の注意点を示しておきます。

① 引用であることがわかるように示す

参考文献の内容を、自分の考えであるかのように書くとき「剽窃（＝盗作）」と見なされてしまうでの注意しましょう。そのためには、引用であることがはっきりわかる書き方をしなければなりません。基本的に、引用した部分は段落を変え、他の部分よりも二字分下げて示しましょう。また、短い引用の場合は、「――」でくくって示します。なお、著者の考えを要約して示す場合は、「この問題について、○○氏は△△△△△△△△と捉えるという見解を示しているが」のように、他者の意見であることがわかるような書き方をしましょう。

引用にしろ、要約にしろ、参照した部分には注をつけて、リポートの最後に出典を明示しましょう。

② 引用の出典を明示する

どのような著書または論文からの引用なのかがわかるようにしましょう。出典の示し方は、参考文献が著書である場合には、次のように示します。

著者名『書名』（出版社名 出版年）

署名・作品名は二重カギ括弧（『 』）でくります。なお、共著の場合は、著者が二人までなら並記し、三人以上の場合には、最初の一人の名前だけ書いて「○○他」としておきます。

また、参考文献が論文の場合には、次のように示します。

著者名「論文名」（『所収書誌名』号数 発行行年月）

論文の題名は、カギ括弧（「 」）でくります。

スタディガイド文学
「和歌とは何か」
S0481-3-1
2021/3/1



スタディガイド（学習指導書）
〈文学〉『和歌とは何か』

2021年3月1日 第1版第1刷発行

発行所 法政大学通信教育部
102-8445 東京都千代田区富士見2-17-1
電話 03（3264）6557
印刷所 株式会社 白 峰 社
170-0013 東京都豊島区東池袋5-49-6
電話 03（3983）2312